

平成 29 年度学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

単位制で培った一人ひとりの個性を大切にす長吉高校の教育力をさらに向上させ、エンパワメントスクール総合学科の枠組みを活用し、すべての生徒を「地域を支える人材」として育成できる学校づくりをめざす。

2 中期的目標

1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 共感から始まる「わかる授業」づくりをめざした校内体制の強化を図る。

- ア 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取組み、生徒の基礎学力の向上を図る。
- イ モジュール授業等で学習のつまづきを取り除き、基礎・基本の定着に努める。また、基礎学力の到達度を3年間通じて追跡する。
- ウ 教員の話す力などのコミュニケーション力を含めた「授業力」の向上を図る。
- エ 電子黒板とタブレット端末などのICTを活用し、学ぶ楽しさを味わえる「わかる授業」を展開する。
※ 教員向け学校教育自己診断における「電子黒板等ICT機器を活用し授業を行った」を毎年3%上げ、平成31年度には85%にする。
(平成28年度 76%)
- オ 授業のユニバーサルデザイン化(視覚化・構造化・協働化)を進める。
※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を毎年3%上げ、平成31年度には70%にする。
(平成28年度 単位制61%、エンパワメント63%)

2 安心で魅力ある学校づくり

(1) 単位制生徒の学校生活への満足度を高める。

- ア 単位制を閉じる平成29年度末に向けて、単位制生徒を一人でも多く卒業させる。
- イ 未登録や29年度末までに卒業できない生徒については、生徒一人ひとりの状況を把握し、修学指導及び進路変更のサポートを行う。

(2) エンパワメントスクール総合学科の改編を推進する。

- ア 従来の分掌体制を刷新する。
- イ 学級経営を含めた担任としての力量の向上を図る。
- ウ モジュール授業及び3年間のエンパワメントタイムなどの内容等について、教材の作成及び取組みの継続とスムーズな運営を行う。

(3) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

- ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす。「気づきシート」「教科アンケート」を通じて、教員の生徒情報共有会議を密接に行う。
 - イ 「高校生活支援カード」の活用を通じて、様々な背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、支援、育成する体制づくりを進める。
 - ウ 魅力ある学校行事への改善を進める。
 - エ 生徒による図書委員会を活用し、図書室の活性化を図る。
 - オ 部活動の活性化を図る。
 - カ 保健室、カウンセリングルーム、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。
 - キ 生徒も一緒に清掃活動を行うことで施設を大切に使用する意識を育てる。保健委員の委員会活動を活発にする。
- (4) 出口を保障する学校づくりを推進するための本校独自のキャリア教育の確立を図る。
- ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。
※ 就職内定率を毎年2%向上させ、3年間で98%をめざす。(平成28年度の就職内定率：92%)
 - イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
 - ウ 問題行動の未然防止に取組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。
※ 遅刻者数を毎年3%減らし、平成31年度には10%減少をめざす。(1・2年合計 H28：3958回 → H31：3562回)
 - ※ 生徒向け学校教育自己診断において「自分からあいさつやお礼を言うことができる」における肯定感を毎年2%引き上げ、平成31年度には85%にする。
(平成28年度 単位制71%、エンパワメント80%)

エ 実用的な技能・資格の取得者の増加を図る。

(5) 人権教育、特に国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

- ア 教員のアンテナを常に高くし、人権感覚を研ぎ澄ますことで差別の未然防止に努める。
- イ 多様化する渡日生、帰国生の母語保障及び日本語教育を推進する。
- ウ 大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。

(6) 本校と専門学校・短大・大学との連携を進める。

- ア 大学等と連携しながら、学校行事や授業、生徒の学習支援、進路支援等とつながるような学校体制を構築する。

3 積極的な情報発信

(1) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

- ア エンパワメントスクール総合学科の授業等を積極的に公開するとともに授業や行事等の高校生活によろすを学校説明会やHP等を通じて広報活動を行う。
また、エンパワ生徒を通じて中学校へ広報活動を行う。
- イ 単位制生徒の活動状況をHP等により発信する。
- ウ 生徒が地域等へ出かけていく取組み(ボランティア活動等)を進める。
- エ 本校の国際的な人材資源を活用し、小中学校と協働して多文化共生の社会づくりを推進する。
- オ 保護者への情報提供を活発にするため保護者用携帯メールを導入する。

(2) エンパワメントスクールにおける学び直し(とりわけ英・数・国)を推進するために地域の中学校等との連携を深める。

- ア 近隣の中学校等と授業見学や教科指導について情報交換し、効果的な学び直しの手法等について研究する体制づくりをめざす。

4 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

(1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

(2) ミドルリーダーの育成及び初任者や経験年数の少ない教員の育成を図り学校力を高める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>＜生徒向け（単位制）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度末で単位制を閉じるなかで、「⑫先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」では 80%（昨年 58%）であった。 「⑰学校行事に満足している」に対して 73%（昨年 67%）。 <p>生徒の進路目標を実現し単位制を閉じる必要がある中で単位制に係る教員のきめ細かい取組みが反映され、「長吉高校に来てよかったと思う」という満足度は 87%（昨年度 75%）。単位制の生徒数が減る中で、一人ひとりの生徒に寄り添い、ていねいにサポートすることができた。</p> <p>＜生徒向け（エンパワメント）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校として重点的に取り組んでいる、「③長吉高校の授業はわかりやすい」については「そう思う」、「ややそう思う」を併せて 61%で目標の 70%には到達しなかった。 特に 2 年生は昨年同様、65%であったのが 57%へ下がっている。2 年次からは授業内容が高度になっており、生徒の到達度に合わせて授業内容を理解できる工夫に取り組んだが結果には現れなかった。 「⑥授業を受けて、自分の考えや意見を伝える力がついた」では 51%。昨年度の状況から目標を 50%から 60%へ引き上げたが昨年目標の 50%から 1%改善されただけで目標に到達できなかった。 「⑰学校行事に満足している」に対して目標の 60%に到達した。今年度 3 学年そろい、工夫して取り組んだ成果が表れた。 「⑱自主的にあいさつやお礼を言うようになった」では目標の 82%をほぼ達成した。 「⑲清掃活動を進んで行う」では昨年度の 51%からは改善されたが目標 60%以上としたが 55%で目標を達成できなかった。 新規追加項目「⑬先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」では、60%の生徒が評価している。 <p>＜保護者向け（エンパワメント）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「①エンパワメントスクールの教育方針」への理解度は 63%（昨年度 64%）であった。より一層ていねいな情報提供が課題である。 「⑪学校はていねいな進路指導を行っている」では 56%（昨年度 47%）、「⑰担任に相談しやすい」では 60%（昨年度 59%）であった。 「⑭学校の生徒指導方針に共感できる」では 52%（昨年度 60%）だった。保護者の半数に理解いただいている現状を踏まえ、保護者への丁寧な指導方針の説明と具体的指導時の保護者連携をより一層推進することが課題である。その為には一斉メールを活用し、情報発信に取り組んでいきたい。 「⑱子供を長吉高校へ入学させて満足している」では 1 年生 71%、2 年生 72%（1 年次 70%）3 年生 90%（2 年次 80%）、合計 76%（昨年度 74%）の保護者から満足していると回答いただいた。学年が進むにつれて学校への満足度が高くなってきた。 新規追加項目「⑫学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」について、37%だった。 <p>＜教員向け＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「①生徒は授業にまじめに取り組んでいる」昨年 56%→今年 42% 「⑥カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」昨年 76%→今年 78% 「⑯生徒や保護者の意見を聞く姿勢がある」昨年 93%→87%。生徒、保護者の担任等と相談しやすいは 58%～59%で教員の意識とは差がある。 「⑰生徒の個性を伸ばせる学校(単位制)」70%（昨年度 74%）に対し、「⑱わかる喜びや学び意欲を呼び起こし生徒の力を引き出す学校(エンパワ)」50%（昨年度 55%）。エンパワメントスクールに適した学校づくりの意識が醸成しきれていない。 「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」項目ではそれぞれ 75%、58%（昨年度 77%、63%）。 「⑬生徒間のいじめや差別につながる行動については未然防止に努め、事象が起きた場合には丁寧にかつ迅速に対応している」昨年度 89%→95% <p>＜全体を通して＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者用追加項目であるいじめに関して、生徒 60%、保護者 37%であったが、教員は 95%と教員がいじめ事象に対応している意識と生徒、保護者の先生が対応してくれるとの意識には差があった。 	<p>第 1 回（H29.6.3）</p> <p>○ES3 期生(1 年)の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の学校からの進学者が増えることは良いこと。 <p>○学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数が激減しているのは良いこと。 学校である限り基礎基本の定着は必要である。 <p>○研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等学校の教員は一國一城の主のような感じで、切磋琢磨するような感じではない。 他教科、教員同士の研修も難しい。そのなかで研修も数多く実施しており、前向きに取り組んでいることは評価できる。 授業以外の話や専門教育以外のことを如何にうまく話すか、先生方に基本的な話す力をみにつけていただきたい。共感からはじまる「わかる授業」づくりで、生徒たちに学力をつけていただきたい。 <p>○中高連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 中高連携は深めていきたいと思っている。保護者対応ができるかどうか担任にいま問われている。そのあたりは中学校も高校も変わらない。 <p>○生徒のコミュニケーション力</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動などからコミュニケーションを育てていき、様々な機会での発表の場を設けていただきたい。 生徒が自分たちで組織づくりをしていくこと。体育祭の準備や修学旅行などの学校行事を通して絆が強くなると思う。 <p>第 2 回（H29.11.15）</p> <p>○生徒活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 本を読むことは大切。いろいろなことが勉強できる。読書感想文のコンクールなどを実施して、「きっかけ」作りをしてはどうか。 学校清掃をさらに高いレベルでしっかりとさせていただきたい。 <p>○地域連携・広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のお盆のふれあい祭りは、長吉高校が一番、参加者が多い。 生徒の活躍していることを垂れ幕の作成で PR してはどうか。小さな大会でもよいので実績を積み重ねて生徒の自尊感情を育むことが大切。 近隣の中学校への広報が重要。広報委員の取組みは大切である。生徒自身の関係づくりができるようにしていただきたい。 <p>○授業改善への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学して、生徒は視覚に興味を惹かれる傾向がみられた。視覚以外のもので興味・関心を持たせるには、先生方のパワーが必要。先生方はきめ細かい工夫を凝らして授業を実践されている。先生方に余裕のある状況をつくっていくことが大切。 声が明るくて、元気があり、生徒に対する問いかけが上手な先生がいた。 寝ている生徒はいても、多くの生徒は前を見て、真剣に授業を受けている。先生方も一人ひとりに起こす努力はされていた。生徒同士で切磋琢磨できるようになれば、なお良い。 授業に対する生徒の取組みは、ここ数年で良くなっている。これは先生方の努力の賜物。ICT 機器などの視聴覚教材を活用しながら先生方の話す力をさらに向上させていただきたい。 生徒の出口保障が一番大事。そのためにも授業改善に一層取り組んでいただきたい。 <p>第 3 回（H30.1.27）</p> <p>○あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつする生徒の割合が多くなったのは良いこと。 <p>○入学の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生方の努力が出ている。 <p>○勉強時間</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部の生徒ではあるが、よく勉強している生徒がいる。 <p>○アルバイト</p> <ul style="list-style-type: none"> アルバイト禁止ならば質問として聞くべきではない。 <p>○わかる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> わかる授業は進路指導につながる大切。 <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が厳しいと感じているのは先生方ががんばっている証拠。授業規律が確立され、学校が以前より改善されてきている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価(12月末時点)
1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	(1) 共感からはじまる「わかる授業」づくりをめざした校内体制強化	(1)	(1) 経営計画で策定した取組計画を推進し、長吉の学校力を高めるため定期考査期間を活用し年4回以上の教員研修を実施する。研修は教頭、学年主任、リーダーが中心となって企画し年2回の授業担当者会議(エンパワ、単位制別)と連動させ実施する。	(1) 教員研修:2回実施(△) 担当者会議:3回実施(◎)
	ア 共感からはじまる「わかる授業」づくりのための授業改善の取組み	ア 共感からはじまる「わかる授業」づくりのPT(各教科の中心教員で組織)を中心に、本校生徒の学習状況(実態)をもとに、それぞれの教科における従来の授業の見直しを行うとともに、教科ごと及び教科を超えた取組の工夫を提案し教員全体で共有できるようにする。	ア ・他のエンパワメントスクール及び「わかる授業」づくりを推進している先進校を訪問し、授業見学とともに各校の取組みを聞き取り、報告会をもつ。 ・公開授業週間を年間2回以上実施する。 ・自己申告票に「わかる授業づくり」の工夫を全員が設定目標として入れる。 ・学校教育自己診断結果における「授業のわかりやすさ」に対して「そう思う」「ややそう思う」併せての回答を70%以上をめざす。 (H28:エンパワメント64%、単位制70%)	ア 先進校訪問 実施できず(△) ・公開授業週間 3回実施(6月,11月,1月)(○) ・学校教育自己診断 「授業のわかりやすさ」(○) ES:61%、単位制:80%
	エ ICTを活用し「わかる授業」の展開	エ 校内研修を通じて電子黒板を活用できる教員のすそ野を広げる。また、電子黒板の効果的な使い方について、先進的な取り組みを実践している教員が講師になり校内研修を実施する。	エ・電子黒板設置教室の授業活用率80%以上をめざす。 (H28:76%) ・電子黒板活用のための校内研修を実施する。	エ 電子黒板授業活用率(○) H29:80% ・校内研修実施せず(△)
オ 授業のユニバーサルデザイン化の推進	オ 授業におけるナチュラルサポート(①~⑫)を実践する。①教室環境を確認する。②教科書、ノート等必要なものを机の上においているか確認する。③授業のめあてを書き本時のポイントを示す。④全員が静かになったことを確認してから話し始める習慣をつける。⑤板書を工夫する。⑥今は「聞くとき」と「書くとき」「話すとき」を区別し、同時に提示しない。⑦大事なところは、何度か繰り返し説明する。⑧視覚的に示すことはできる教材・教具を多用する。⑨生徒の努力や取り組みをほめる機会を多くつくる。⑩本時のポイントを復唱し、まとめ、振り返りを行う。⑪授業の中で何度かリスタートの場面をつくる。⑫全体への説明や指示はできるだけシンプルにする。	オ・授業におけるナチュラルサポートを意識した授業実践を教科会議を活用して行う。各自で振り返り行う。 ・「授業におけるナチュラルサポート」を意識した授業ができていないか確認するために、生徒の学校教育自己診断における「授業のわかりやすさ」について、「そう思う」と「ややそう思う」で70%以上をめざす。 [H28:エンパワ:63%、単位制:61%] ・生徒理解のための校内研修として、年間2回の授業担当者会議を活用する。	オ 学校教育自己診断 「授業のわかりやすさ」(○) ES:61%、単位制:82% ・授業担当者会議 2回実施(6月,11月)(○)	

2 安全 安心 学力 向上 の 実現 を めざ す	<p>(1) 単位制生徒の満足度高める ア 単位制生徒の卒業率の引き上げと未登録生徒への対応</p>	<p>(1) ア 単位制生徒の授業への出席率をあげ、単位修得率を向上させて、卒業者を増やす。 単位制生徒の卒業生を増やすために、具体的な手立てとして追試を年2回行う。</p>	<p>(1) ア 単位制生徒の単位修得に向けた情報共有の取組みとして、「卒業年次に関わる教員の会議」を年間2回以上もつ（上掲の授業担当者会議の卒業年次会議を活用する）。 ・単位制生徒とのかかわりの深い元担任等を中心に授業担当者として生徒が相談しやすい体制を作る。 ・未登録生徒への連絡確認を夏休みまでに行うとともに、連絡が取れない生徒へは夏休み中に家庭訪問を行い状況確認のうえ対応する。</p>	<p>(1) ア ・教員会議 2回実施(6月,11月)(○) ・授業担当者配置 元担任等を中心に配置(○) ・未登録生徒対応 年度末まで在籍予定0名(◎)</p>
	<p>(2) エンパワメントスクール改編の推進 ア 分掌体制の刷新</p>	<p>(2) ア エンパワメントスクールの学年制に合わせて、教頭を中心とし分掌体制の再構築を行う。</p>	<p>(2) ア H30年度の単位制からエンパワメント総合学科への完全移行に向け、学年制に即した分掌体制の在り方に係る諸課題を運営委員会を活用して検討する。(2回/学期)</p>	<p>(2) ア 運営委員会で検討(5回) H30年度より「総務部」と「情報管理部」を統合し「教務部」を創設(○)</p>
	<p>ウ モジュール授業及びエンパワメントタイム等の取組み</p>	<p>ウ ・「エンパワPT」を中心に、エンパワメントタイム等について教材の作成、継続的に取組み、スムーズな運営を行う。 ・モジュール授業等については、教材の時点修正を行う。また、各教科において、生徒につけたい学力の目標を決め、定点観測を行うとともに、定期的に指導方法等の修正を行う。</p>	<p>ウ ・エンパワメントタイム等の満足度を授業アンケート等によって図る。エンパワメントタイム等の満足について、「そう思う」「ややそう思う」併せて70%以上をめざす。 ・英語・数学・国語のモジュール及び社会入門、理科入門については、各教科内で前期中間考査までに、生徒につける学力の到達度を決めるとともに、前後期末に見直しを行い、達成できるように定期的に指導方法等の修正を加える。また、教科内で教材の時点修正及び共有化を図る。 ・上記の教科において教科会議を活用し、定点観測を行う。定点観測方法の企画、実施は教頭を中心に情報管理部と教科が連携し行う。</p>	<p>ウ アンケート(1月末実施) 70%(○)</p>
	<p>(3) セーフティネットの拡充 ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす</p>	<p>(3) ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導 ・特に1学年は早期に生徒・保護者との面談を行うとともに出身中学校との連携を密にする。 ・担任等は生徒の出欠状況の把握を行い、出席率の低い生徒や長期欠席者等を中心早期に保護者と連絡をとる。5月連休明け、夏休み明け、後期の早い段階、冬休み明けの生徒の出欠状況に応じて、生徒や保護者との懇談や家庭訪問を行う。</p>	<p>(3) ア ・1年生は4～5月に生徒・保護者との懇談期間を設ける。また、出席率の低い生徒には状況に応じて保護者懇談や家庭訪問を行う。 ・1年生については、高校生活が円滑にいくよう中学校ヒアリングを行うとともに、問題事象の状況に応じて中学校と連携する。 ・「先生は悩みや相談にいていねいに感じてくれる」(生徒用)項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて60%以上をめざす。(H28:エンパワ:52%、単位制:58%) ・「担任等に相談しやすい」(保護者用)の項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて65%以上をめざす。(H28:エンパワ:58%、単位制:61%)</p>	<p>(3) ア ・1年生懇談期間実施(4月)(○) ・全教員で中学校訪問実施(○) ・学校教育自己診断 「応じてくれる」(○) ES:58%、単位制:80% ・学校教育自己診断 「相談しやすい」(○) ES:60%、単位制:100%</p>
	<p>ウ 学校行事の改善</p>	<p>ウ 単位制と学年制の学校行事との調整を生徒部と学年、年次間で図るとともに、生徒が積極的に取り組めるような学校行事に改善する。とくに単位制の生徒の学校行事への満足度を向上させる工夫をする。</p>	<p>ウ ・生徒対象・学校教育自己診断の「学校行事に満足している」項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて60%以上をめざす。(H28:エンパワ:52%、単位制:67%)</p>	<p>ウ 学校教育自己診断 「学校行事」(◎) ES:60%、単位制:73%</p>
	<p>エ 図書室の活性化</p>	<p>エ 図書委員生徒を活用し、おすすめ図書の充実とともに、生徒が図書室に来て本を読みたくなるような工夫を行う。</p>	<p>エ ・図書室の昼休み、放課後を含む放課後の利用者を前年度よりも5%増やす。(H28:2279人)</p>	<p>エ 図書館利用者:3945人 (73%増)(◎)</p>
	<p>オ 部活動の活性化</p>	<p>オ エンパワメントスクール1年生の部活動加入の推進に生徒部、学年を中心に全教員で取り組む。</p>	<p>オ ・年度末におけるエンパワメントスクール1年生の部活動加入率40%をめざす。(H28:1年生・部活動加入率:35%)</p>	<p>オ 部活動加入率:52.9%(◎)</p>
	<p>キ 清掃活動の推進</p>	<p>キ エンパワメントスクールの生徒は毎日教室の清掃を行う。また、単位制生徒は週1回のHRを利用して教室の清掃を行う。</p>	<p>キ ・エンパワメントスクールの生徒対象・学校教育自己診断の「清掃活動を進んで行う」項目について「そう思う」「ややそう思う」併せて55%以上をめざす。(H28:51%)</p>	<p>キ 学校教育自己診断 「清掃活動」(○) ES:55%</p>

2 府立長吉高等学校	<p>(4) 本校独自のキャリア教育の確立 ア 外部人材を活用しながらキャリア教育の推進</p>	<p>(4) ア・昨年度、ガイダンス部が作成した3年間を見通したキャリア支援計画を、教頭のもとガイダンス部、情報管理部、学年代表で検討し具体化する。 ・本校に配置される外部人材（CC、SSW、SC）の活用と必要に応じて三者間の連携を図る。</p>	<p>(4) ア・3年間を見通したキャリア支援計画を左記のメンバーで検討し具体化し、各学年における指導のテーマと達成目標を明確にする。 ・就職内定率 94%以上（H28；92%） ・CC の効果的な活用を図るため、ガイダンス部長と CC との連携を密にする。 また、SC、SSW は、学年、年次と保健カウンセリング部との連携を密にし、生徒の学校生活の安心・安定化を図る。</p>	<p>(4) ア ・内定率：97% (◎) （64 人/66 人） ・CC とガイダンス部長が毎週連絡会を実施 (○) 保健カウンセリング部が SC 及び SSW の出勤日ごとに連絡会を実施、SSW との連携状況は府教育センターフォーラムにて報告 (◎)</p>
	<p>イ 生徒のコミュニケーション能力等の向上</p>	<p>イ・長吉高校における教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。</p>	<p>イ・エンパワメントスクールの生徒対象・学校教育自己診断に「私は長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う」の項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて、60%以上をめざす。 (H28：エンパワ 50%、単位制60%)</p>	<p>イ 学校教育自己診断 「意見を伝える」 (○) ES：51%、単位制：67%</p>
	<p>ウ 社会人としての態度・マナーの育成</p>	<p>ウ・単位制とエンパワメントスクール併存期の生徒指導について、混乱がおきないようにする。エンパワメント生徒については、遅刻や服装・頭髪等について指導を徹底する。 ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。</p>	<p>ウ・生徒部学年主担の役割を明確にし、生徒部長との連携を密にし、学年中心の生徒指導体制へ移行する。エンパワメントスクール生徒の学校遅刻数を昨年度比 10%減らす。 【H28.12：1・2 年計：2939 名】 ・エンパワメントスクール生徒対象・学校教育自己診断に「自主的にあいさつやお礼を言うようになった」の項目について、「そう思う」「ややそう思う」併せて、82%以上をめざす。 (H28：エンパワ 80%、単位制 71%)</p>	<p>ウ ・遅刻数：1.5%減 (△) [H28：2939 回、 H29：2894 回] ※ 1・2 年合計で比較 ・学校教育自己診断 「あいさつ・お礼」 (○) ES：81%</p>
	<p>(5) 人権教育の推進 ア 教員の人権意識の向上</p>	<p>(5) ア・単位制とエンパワメントの併存</p>	<p>(5) ア・単位制とエンパワメントの併存期における生徒間の諸問題に対応するため、保健カウンセリング部や人権文化部が関係学年、年次と連携し人権研修を実施する。</p>	<p>(5) ア 人権研修：3 回実施 (◎)</p>
	<p>ウ 多文化共生の学校</p>	<p>ウ 「多文化プロジェクト」(メンバー：教頭、人権文化部長、ガイダンス部、情報管理部、学年主任代表、多文化研究会等) を活用し、外国にルーツを持つ生徒と他の生徒との校内での交流を促進する。</p>	<p>ウ・「多文化プロジェクト」を活用し、外国にルーツを持つ生徒と他の生徒が交流できる新たな学校行事を企画し、H30 年度の実施の準備をする。</p>	<p>ウ「多文化プロジェクト」(○) 1 回開催。また、1 月の人権講演会にてイベントとして、外国にルーツを持つ生徒が全校生徒の前でダンスを披露</p>
	<p>(6) ア 大学等との連携</p>	<p>(6) ア・学校行事や授業、生徒の学習支援等について大学等と連携する。</p>	<p>(6) ア・2 つ以上の大学・専門学校等と連携をめざす。</p>	<p>(6) ア・高大連携：1 回実施 (△)</p>

<p>3 積極的な情報発信</p>	<p>(1) 中学校等への広報強化 ア エンパワメントスクールの授業公開及び学校説明会等の実施</p> <p>イ 単位制生徒の頑張っている様子を発信</p> <p>ウ 地域や小中学校等との連携した取り組みの推進</p> <p>オ 保護者への情報提供</p> <p>(2) 地域の小中学校との連携の推進 ア 近隣の中学校等との授業見学や教科に関する情報交換</p>	<p>(1) ア・エンパワメントスクールの授業を公開授業週間に公開し、保護者及び中学校の先生方々に見学してもらう。 ・また、HP 等通じてエンパワメントスクール生徒の高校生活や授業の様子を掲載し広報活動を行う。 ・さらに、周辺地域の中学校を中心に教職員による（管理職も含む）中学校訪問を行うとともに、エンパワメントスクール生徒を通じて中学校へ広報活動を行う。</p> <p>イ・単位制生徒の頑張っている様子等についてHP 等で発信する。</p> <p>ウ・地域清掃などのボランティア活動や出前授業、ゲストティーチャー等、地域や小中学校等へ出かける取り組みを進める。</p> <p>オ 保護者用携帯メールの導入</p> <p>(2) ア・近隣の中学校等との授業見学や教科研究等について情報交換し、学校連携を継続的に行う体制を構築する。</p>	<p>(1) ア ・HP や校門及び玄関前の掲示板の活用を図る。月に1回は掲示内容を入れ替える。 ・中学校教員向け学校説明会と公開授業を組合わせて実施する。（年間1回以上） ・エンパワメントスクール生徒で長吉高校PR 隊を結成（PR 隊：30人以上をめざす）し、学校説明会や体験授業等のサポートを行う。また、エンパワメントスクール生徒の出身中学校訪問を20件以上めざす。（H28：18件） ・平野・東住吉・住吉・阿倍野区、八尾市、松原市、東大阪市、藤井寺市、羽曳野市を中心に、教職員による中学校訪問を年間2回以上実施する。</p> <p>イ・HP や校門及び玄関前の掲示板の活用を図る。月に1回は校門の掲示内容を入れ替える。</p> <p>ウ・保健カウンセリング部が保健委員の生徒を中心に生徒有志を募り、「地域清掃」を年間8回以上行う。（H28：8回） ・人権文化部の指導のもと、外国にルーツを持つ生徒の小中学校へのゲストティーチャーを年間2回以上行う。（H28：1回）</p> <p>オ・保護者用携帯メールを活用し、保護者への積極的な情報発信を行う（各学年、1回以上/月）</p> <p>(2) ア・近隣の中学校等から、本校のエンパワメントスクールの授業見学に来てもらい、その後、授業についての意見交換を行う機会を4回以上もつ。（H28：4回）</p>	<p>(1) ア ・7回入替実施(○)</p> <p>・1回実施(○) (11月実施)</p> <p>・PR 隊：38名結成(◎) 生徒による中学校訪問 20件(○)</p> <p>・教員による中学校訪問(○) 5月実施、3月実施</p> <p>イ 7回入替実施(1回/月)(○)</p> <p>ウ 地域清掃：5回実施(○) ※ 123月に各1回実施予定</p> <p>・ゲストティーチャー(○) 2回実施</p> <p>オ 情報発信：11回発信(△)</p> <p>(2) ア 1回実施(△)</p>
<p>し4 校ICTの効率化</p>	<p>(1) ICT等の活用により、教職員の事務作業時間の軽減</p> <p>(2) ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成</p>	<p>(1) ・校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。また、このことにより、教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する</p> <p>(2) ・ミドルリーダーの育成を図る。 ・教職経験年数の少ない教職員の資質と能力の向上を図る。</p>	<p>(1) ・SSCの掲示板活用と職員室掲示を併用し教職員への日々の連絡体制を徹底する。</p> <p>(2) ・首席候補を育成する。 ・ミドルリーダーの育成または教職経験年数の少ない教職員を対象とした校内研修を1回以上実施する。</p>	<p>(1) ・SSCの掲示板をほぼ毎日活用し、教職員への日々の連絡を徹底した。(○)</p> <p>(2) 校内研修(2月実施)(○)</p>